

基幹産業が集積する「南部地区」

東海元浜ふ頭 ・ 横須賀ふ頭



【港内位置図】

官民一体で銑鋼一貫体制の製鉄所を誘致

所在地である東海市の面積のおよそ 6 分の 1 を占める港内最大のふ頭で、巨大な製鉄所が立地しています。

中部は戦前から京浜、阪神と並ぶ工業地帯の一つでしたが、戦後、東海地方には特殊鋼メーカーが多い反面、普通鋼材を供給する高炉メーカーが無く、製鉄業がその産業構造の弱点とも言われていました。

そこで官民が一体となって、銑鋼一貫体制の製鉄所誘致活動が展開され、昭和 33 年、富士製鉄株式会社と愛知県、地元財界の共同出資による東海製鉄株式会社が誕生。地盤の固いこの地に工場が建設されました。現在の工場の規模は、周囲約 10km、東西約 2km、南北約 3km に及びます。

以後、この製鉄所を軸に鉄鋼、電力、石油、化学の複合コンビナートが名古屋港南部地域に形成されていきました。



東海製鉄株式会社はその後、富士製鉄株式会社、八幡製鉄株式会社との合併により、新日本製鉄株式会社名古屋製鉄所が発足。さらに平成 24 年に住友金属工業株式会社と経営統合し、新日鐵住金株式会社となり、平成 31 年 4 月に日本製鉄株式会社に商号変更。

港内最大の鉄鉱石・石炭の原料基地

延長約 1 キロの原料岸壁に大型原料船 2 隻が接岸

製鉄所には水深 13~14m、総延長 990m の原料岸壁と 1,323m の製品岸壁（外国貿易船用 873m：水深 10~12m、国内船用 450m：水深 4.5~7.5m）が備わっています。原料岸壁には大型船が 2 隻同時に係留でき、大型アンローダーを使って最大約 16.8 万トン/日の鉄鉱石や石炭を降ろすことができます。港内で取り扱われる鉄鉱石と石炭のほとんどはここから輸入されています。製品岸壁からは、コイル、鋼管、鋼板などが大型クレーンにより積み出されています。

このふ頭内には日本製鉄株式会社のほか、大同特殊鋼株式会社が、また北対岸のふ頭には愛知製鋼株式会社などの特殊鋼メーカーが立地しています。



横須賀ふ頭

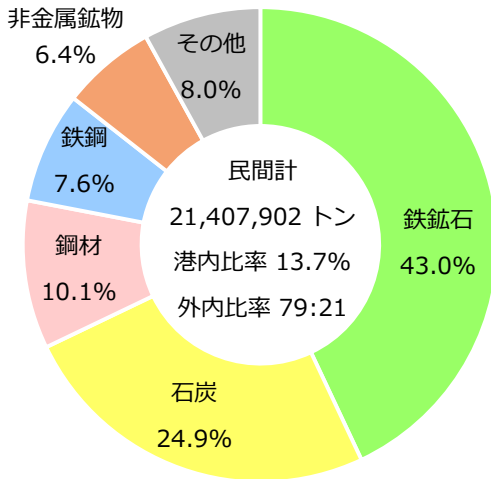
エリア基本データ

ふ頭名称	東海元浜, 横須賀
旧名称	南2区, 変わらず
臨港地区面積	741.9ha, 8.1ha
埋立完成時期	東海元浜 昭和33.7.23~昭和50.12.22 横須賀 昭和33.7.23~昭和61.12.25
バース水深	4.5~14m, 4.5m

民間計 (東海元浜ふ頭周辺)

係留隻数 3,326隻

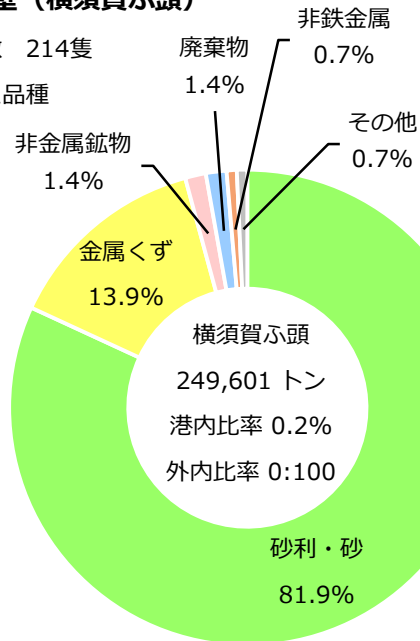
取扱量と品種



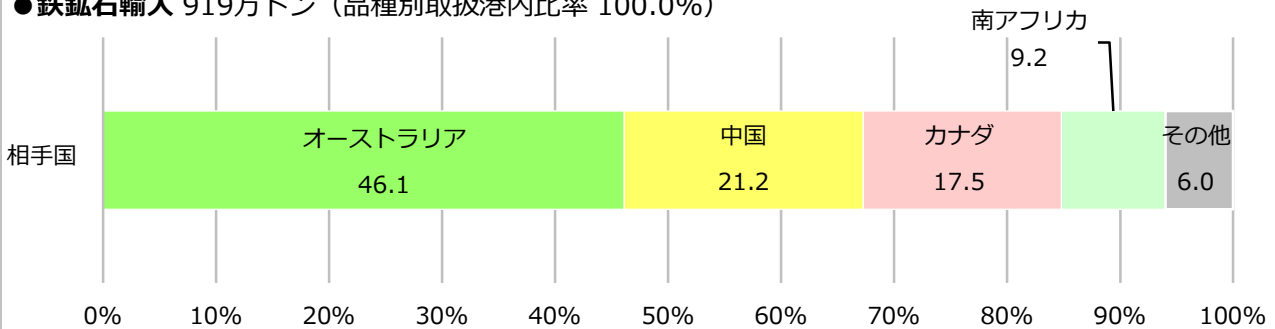
公共岸壁 (横須賀ふ頭)

係留隻数 214隻

取扱量と品種



●鉄鉱石輸入 919万トン (品種別取扱港内比率 100.0%)



●石炭輸入 527万トン (品種別取扱港内比率 94.6%)

